

事業コード	H19-建-新-06		区 分	国庫補助 県単独
事業名	通常砂防事業		部局課室名	建設交通部 河川砂防課
事業種別	通常砂防事業		班 名	傾斜地保全・砂防班 (tel) 018-860-2532
路線名等	小杉崎沢川		担当課長名	萩野 敏明
箇所名	仙北郡美郷町浪花		担当者名	主幹(兼)班長 荒木 洋
総合計画との関連	政策コード	C	政 策 名	快適で安全な生活を支える環境づくり
	施策コード	03	施 策 名	災害に強い県土づくりと危機管理体制の充実
	指標コード	05	施策目標(指標)名	土砂災害危険箇所整備率

1. 事業の概要

事業期間	H20 ~ H23 (4年)		総事業費	3.8億円	国庫補助率	1/2	
事業規模	砂防堰堤1基(H7.5m,L=60.0m),単独床固工(H3.9m,L=67.6m),溪流保全工(L=573m)						
事業の立案に至る背景	当溪流は、仙北郡美郷町浪花に位置し、保全対象として人家9戸・田圃14.2ha・町道大坂小杉崎線・干畑ラベンダー園に通じる町道大坂善知鳥外川原線(みずほの里ロード)等を抱える、荒廃の進んだ溪流である。当溪流は、平成16年7月の豪雨をはじめ幾度となく山腹崩壊が発生しているため、溪床には多くの不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨等により土石流が発生する危険性が高い。特に、保全家屋周辺では河道が屈曲しており土砂が堆積しやすいため、土石流発生時には河川断面の埋塞や溢水が生じ、家屋への浸水・土砂流入等の多大な被害が生じる。このような土砂災害から砂防施設をもって人命、財産を保全するため、平成20年度の新規箇所として要望するものである。						
事業目的	<p>【主たる目的】</p> <p>土石流を砂防えん堤で捕捉し、人家9戸の安全や緊急輸送道路及び避難路を含む町道の通年交通を確保することで、浪花地区住民の生命・財産を守る。</p> <p>【保全対象】</p> <p>人家 9戸 町道 L=3,300m 農地 A=14.2ha 育苗センター 橋梁 N=7橋</p>						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			全 体	H20 年度	H21 年度	H22 年度	H23 年度以降
	事業費		380,000	30,000	120,000	120,000	110,000
	経費 内訳	工事費	320,000		100,000	115,000	105,000
		用補費	18,000		16,000	1,000	1,000
		その他	42,000	30,000	4,000	4,000	4,000
	財源 内訳	国庫補助	190,000	15,000	60,000	60,000	55,000
		県 債	171,000	13,500	54,000	54,000	49,500
その他							
一般財源	19,000	1,500	6,000	6,000	5,500		
事業内容		本工事 地形測量 詳細設計 用地補償	地形測量 予備設計 詳細設計 用地測量	工事用道路工 えん堤工 山腹工 用地補償	単独床固工 流木捕捉工 溪流保全工 用地補償	溪流保全工 用地補償	
調査経緯	平成18年度 県単砂防調査 砂防流域調査委託						
上位計画での位置付け	「あきた21総合計画」第3期実施計画において、「災害に強い県土づくりと危機管理体制の充実」の施策として位置づけられている。						
関連プロジェクト等	特になし						
事業を取り巻く情勢の変化	平成16年7月に土砂災害の発生が確認されており、山腹崩壊や溪岸侵食により流域の荒廃と不安定土砂の堆積が進んでいる。 全国的にみても平成18年7月に発生した長野県岡谷市の土石流災害(死者7名)により、ハード・ソフト一体となった砂防施設整備が急務となっている。						
事業効率把握の手法	指 標 名	土砂災害危険箇所整備率					
	指 標 式	概成箇所数/危険箇所数					
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無		
	目標値 a	24 %		データ等の出典	危険箇所調査結果		
	達成値 b	22 %					
	達成率 b/a	92 %		把握の時期	平成19年 3月		

2. 所管課の1次評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	流域の急勾配な斜面の荒廃が進み、かつ流出した土砂が不安定に堆積しており、非常に危険な状態である。 土石流が発生した際には、浪花地区の人家9戸・町道3,300mが浸水や埋塞等の被害を受けることから、事業の必要性は高いといえる。 砂防法第5条により、工事の施行は都道府県が行うものと位置付けられている。	15点
緊 急 性	流域内は斜面勾配が急で、平成16年7月の豪雨により山腹崩壊や溪岸侵食が発生しており、溪床への土砂堆積が著しく進行している。 今後の豪雨等により土石流が発生する危険性が高く、人家9戸や町道等への多大な被害が発生するため、早急な整備が必要である。 現地聞取りや調査により降雨時の土砂流出や崩落地拡大が確認されている。	32点
有 効 性	施設を整備することにより、土砂災害から人命や財産、町が地域防災計画で定めた第一次緊急輸送道路・町道大坂善知鳥外川原線が守られ、安全な区域が短期間に確保される。 砂防えん堤は、土石流発生・流下を抑制する最も有効な手段である。 代替案として考えられる住居移転は、住民への精神面及び費用面の負担が大きく、全戸移転しなければ効果がないことから、施設整備の有効性は高い。	16点
効 率 性	事業の費用便益比は1.56であり効率性は高い。 ・総費用の現在価値 3.54億円 ・総便益の現在価値 5.54億円 事業費は、残存型枠使用・仮設道路の管理用通路との兼用の検討・建設廃材の使用等により、コストの削減を行う。	10点
熟 度	町役場と地元住民による要望書が県に提出されており、砂防事業の実施にあたっては合意形成が成される見込みである。 県では危険箇所マップの配布等により住民への周知を実施しており、また地元住民も豪雨に伴う土砂流出を目の当たりにしていることから土石流災害への関心は高く、平成18年に美郷町長から対策を要望されている。	8点
判 定	ランク () ランク であり、浪花地区の人家及び地区の生活基盤となる道路を土石流災害から未然に防ぐ施設整備は、住民の生命・財産を保全する上でも有利な事業箇所であり、実施すべきと考える。	81点
総 合 評 価	選定 改善して選定 保留 各観点の評価結果から、事業実施箇所としての優先度が高く、事業を実施すべきと考える。	

3. 総合政策課長の2次評価

総合評価	選定	改善して選定	保留
平成16年7月の豪雨によるものをはじめ、頻りに山腹崩壊や土砂災害などが発生しており、砂防堰堤の建設や溪流保全工などにより人家9戸、町道などを保全する。今後、周辺住民への避難対策なども並行し実施すべきであるが、流域内の溪床には多くの土砂が不安定に堆積し、豪雨等により土石流が発生する危険性が高いことから、本事業の実施は妥当と判断される。			

4. 財政課長意見

意見内容	選定	改善して選定	保留
頻りに発生している山腹崩壊により、今後の豪雨で土石流が発生する可能性が高いことから、事業の実施は妥当と考える。			

5. 最終評価(新規箇所選定会議)

総合評価	選定	改善して選定	保留
事業の実施は妥当である。			

6. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業箇所を国に新規要望する。 ・事業実施にあたっては、コスト縮減等に努める。
--

7. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を「可」とする。

評価種別 新規箇所評価
適用基準名 砂防事業

事業コード(H19-建-新-06)
箇所名 (仙北郡美郷町浪花)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要	
必要性	土砂災害に対する情報提供の有無	有り	5	5		
	危険箇所マップ等の公表の有無	無し	0			
	事業の必要性					
	県関与の必要性	法令等で県が実施する事業	5	5		
		県が実施すべき広域的な事業	3			
		県が実施した方が望ましい事業	1			
		県関与の必要性が低い事業	0			
	地域住民のニーズ	地域住民のニーズが高い	5	5		
		地域住民のニーズが低い	0			
	流域の整備状況					
砂防設備の整備状況	未整備	5				
	低い(土砂整備率30%以下)	2				
	低い(土砂整備率30%超)	0				
	計		20	15		
緊急性	災害実績					
	過去の災害発生履歴	発生後の経過が3年以内	10	10		
		発生後の経過が10年以内	5			
		その他	0			
	災害発生の危険度					
	地形・地質の状況	極めて不良	8	8	火山噴出物、花崗岩、第三期層、破碎帯で地すべり地形を呈するもの	
		不良	4			
		良好	0			
	植生の状況	極めて不良	7	4		禿しゃ状態、倒木多数等 放置林、単層林等で下層植生が生育していない等
		不良	4			
	良好	0				
河床堆積、溪岸侵食状況	甚だしい	10	10			
	比較的安定	5				
	安定	0				
	計		35	32		
有効性	災害発生時の影響(被害想定範囲内)					
	人家戸数	20戸以上	10	6		
		5~20戸未満	6			
		1戸~5戸未満	2			
		0戸	0			
	災害弱者施設の有無	重要施設が有る	5	0	自力避難困難者を収容 上記以外の災害弱者を収容	
		一般施設が有る	3			
		無し	0			
	公共施設等の有無	有り	5	5		官公署、道路等
		無し	0			
施策目標への貢献						
土砂災害危険箇所整備率への貢献	危険渓流ランク	5	5			
	危険渓流ランク	3				
	その他	0				
	計		25	16		
効率性	費用対効果					
	B / C	1.0以上	10	10		
		1.0未満	0			
	計		10	10		
熟度	事業着手の熟度					
	地元住民との合意形成	合意形成が済んでいる	5	3		
		合意形成がなされる見込みである	3			
		合意形成がなされていない	0			
	関係自治体等との合意形成	合意形成が済んでいる	5	5		
		合意形成がなされる見込みである	3			
	合意形成がなされていない	0				
	計		10	8		
合計			100	81		

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		